

1 介護保険事業の状況について

(1) 本市の高齢者の状況

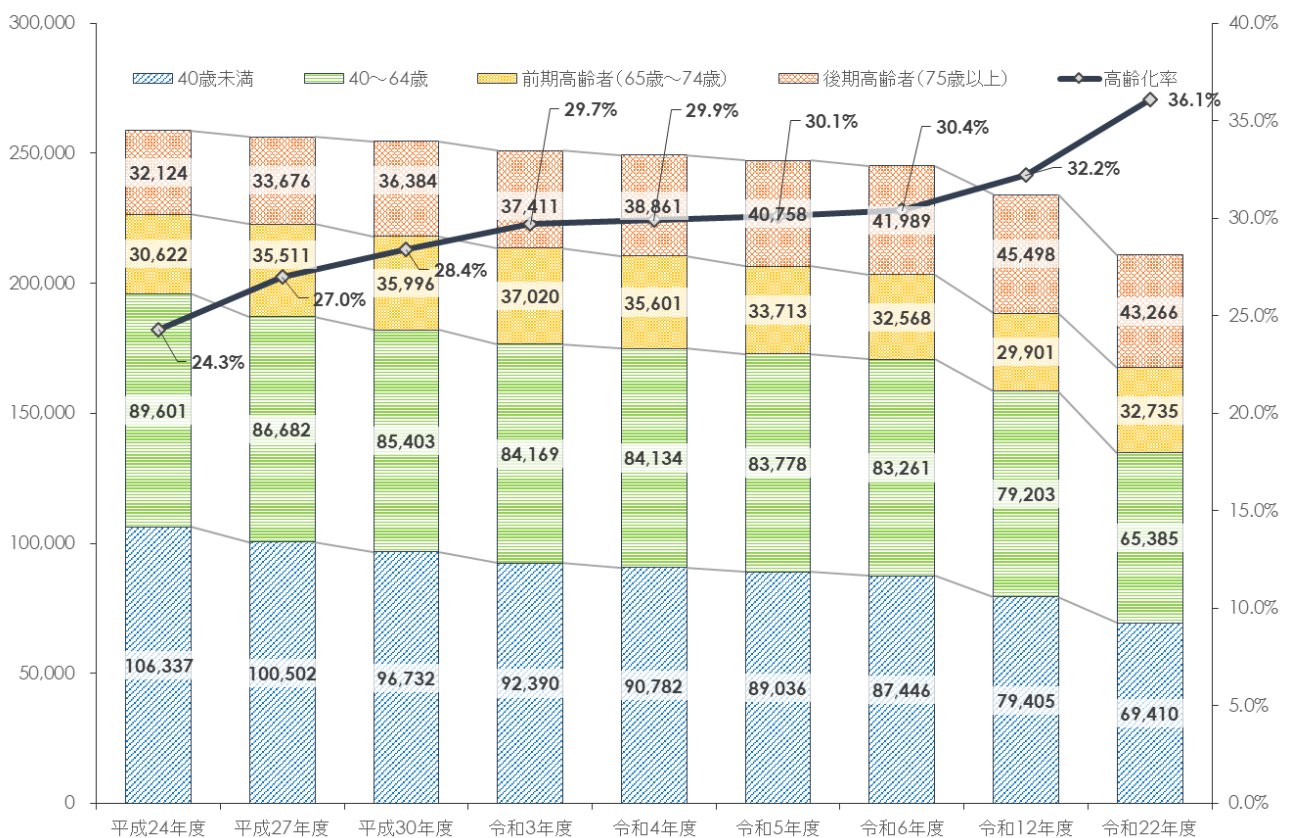
令和6年9月1日現在、市域全体の高齢者人口は74,557人で、高齢化率は30.4%となっている。

前期高齢者と後期高齢者の人口を比較すると、後期高齢者が前期高齢者を大幅に上回っている。今後は、その差がさらに大きくなり、介護を必要とする高齢者の増加が予測される。

単位：人

区 分	平成24年度	平成27年度	平成30年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和12年度	令和22年度
人 口	258,684	256,371	254,515	250,990	249,378	247,285	245,264	234,007	210,796
40～64歳	89,601	86,682	85,403	84,169	84,134	83,778	83,261	79,203	65,385
65歳以上	62,746	69,187	72,380	74,431	74,462	74,471	74,557	75,399	76,001
前期高齢者 (65～74歳)	30,622	35,511	35,996	37,020	35,601	33,713	32,568	29,901	32,735
後期高齢者 (75歳以上)	32,124	33,676	36,384	37,411	38,861	40,758	41,989	45,498	43,266
高齢化率	24.3%	27.0%	28.4%	29.7%	29.9%	30.1%	30.4%	32.2%	36.1%

各年度10月1日現在の実績（令和6年度のみ9月1日現在）。令和12年度及び令和22年度は推計。



(2) 日常生活圏域別の高齢者人口及び高齢化率

令和6年9月1日現在、市域全体で高齢化が進む中、特に顕著に現れているのが南西部地域で、その高齢化率は33.1%となっている。また、行政地区別では、不動が43.0%、入田が42.0%、北井上が41.7%、新町が41.5%となっている。

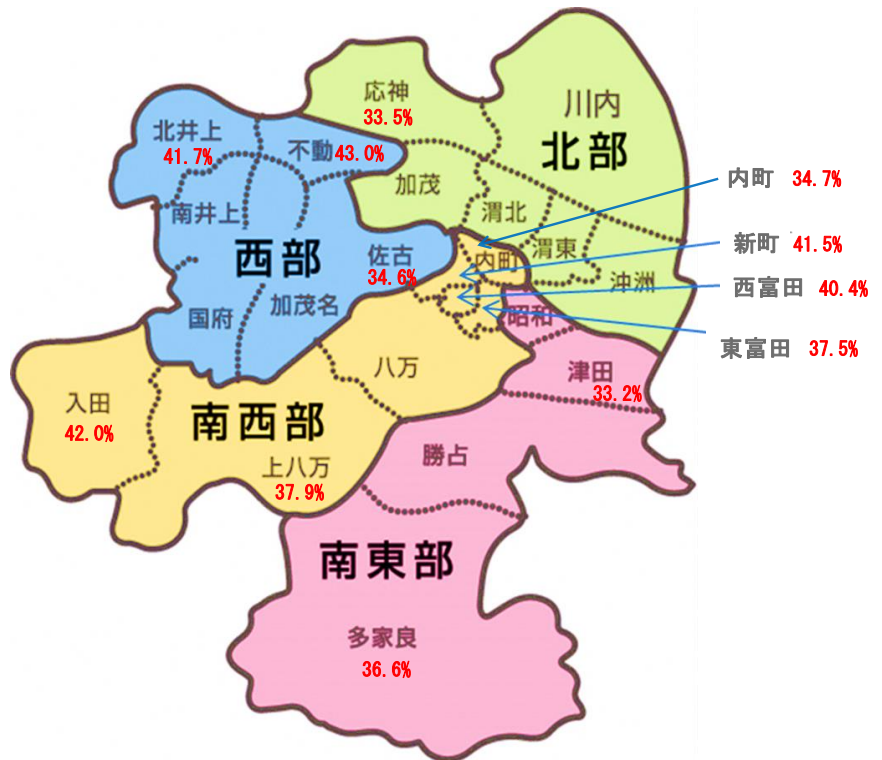
日常生活圏域の人口将来推計

(単位：人)

日常生活圏域	区 分	平成24年度	平成27年度	平成30年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和12年度
北部地域	人 口	90,211	89,729	89,217	88,562	88,248	87,818	87,101	87,080
	65歳以上	19,934	21,976	22,939	23,743	23,740	23,902	24,006	25,745
	前期高齢者(65歳～74歳)	9,797	11,353	11,491	11,929	11,472	10,926	10,636	10,866
	後期高齢者(75歳以上)	10,137	10,623	11,448	11,814	12,268	12,976	13,370	14,879
	高齢化率	22.1%	24.5%	25.7%	26.8%	26.9%	27.2%	27.6%	29.6%
西部地域	人 口	62,332	61,647	61,515	61,230	60,964	60,423	59,983	57,154
	65歳以上	16,296	17,769	18,428	18,901	18,890	18,820	18,837	19,303
	前期高齢者(65歳～74歳)	7,846	8,968	8,974	9,204	8,849	8,388	8,122	7,736
	後期高齢者(75歳以上)	8,450	8,801	9,454	9,697	10,041	10,432	10,715	11,567
	高齢化率	26.1%	28.8%	30.0%	30.9%	31.0%	31.1%	31.4%	33.8%
南西部地域	人 口	55,682	55,147	54,401	53,187	52,527	52,025	51,537	51,256
	65歳以上	14,491	16,002	16,835	17,162	17,137	17,076	17,044	18,094
	前期高齢者(65歳～74歳)	6,995	8,148	8,396	8,509	8,140	7,692	7,410	7,393
	後期高齢者(75歳以上)	7,496	7,854	8,439	8,653	8,997	9,384	9,634	10,701
	高齢化率	26.0%	29.0%	30.9%	32.3%	32.6%	32.8%	33.1%	35.3%
南東部地域	人 口	50,456	49,848	49,382	48,011	47,639	47,019	46,643	46,723
	65歳以上	12,025	13,440	14,178	14,625	14,695	14,673	14,670	15,606
	前期高齢者(65歳～74歳)	5,984	7,042	7,135	7,378	7,140	6,707	6,400	6,299
	後期高齢者(75歳以上)	6,041	6,398	7,043	7,247	7,555	7,966	8,270	9,307
	高齢化率	23.8%	27.0%	28.7%	30.5%	30.8%	31.2%	31.5%	33.4%

(単位：人)

日常生活圏域	人 口	高齢者人口 (65歳以上)	高齢化率
北部地域	87,101	24,006	27.6%
渭東	13,718	4,072	29.7%
渭北	14,795	3,919	26.5%
沖洲	16,752	4,883	29.1%
加茂	20,432	4,794	23.5%
川内	16,285	4,624	28.4%
応神	5,119	1,714	33.5%
西部地域	59,983	18,837	31.4%
佐古	10,557	3,658	34.6%
加茂名	24,248	7,031	29.0%
不動	2,200	947	43.0%
国府	13,034	3,884	29.8%
南井上	6,506	1,883	28.9%
北井上	3,438	1,434	41.7%
南西部地域	51,537	17,044	33.1%
内町	5,257	1,824	34.7%
新町	1,715	711	41.5%
西富田	1,723	696	40.4%
東富田	6,108	2,291	37.5%
八万	26,862	7,719	28.7%
上八万	8,426	3,196	37.9%
入田	1,446	607	42.0%
南東部地域	46,643	14,670	31.5%
昭和	9,551	2,842	29.8%
津田	13,570	4,503	33.2%
勝占	17,197	5,007	29.1%
多家良	6,325	2,318	36.6%



(3) 要介護（要支援）認定者等の状況

認定者数は、多少の増減を繰り返しながら横ばいとなっている。
 認定率は、若干下がる傾向にある。

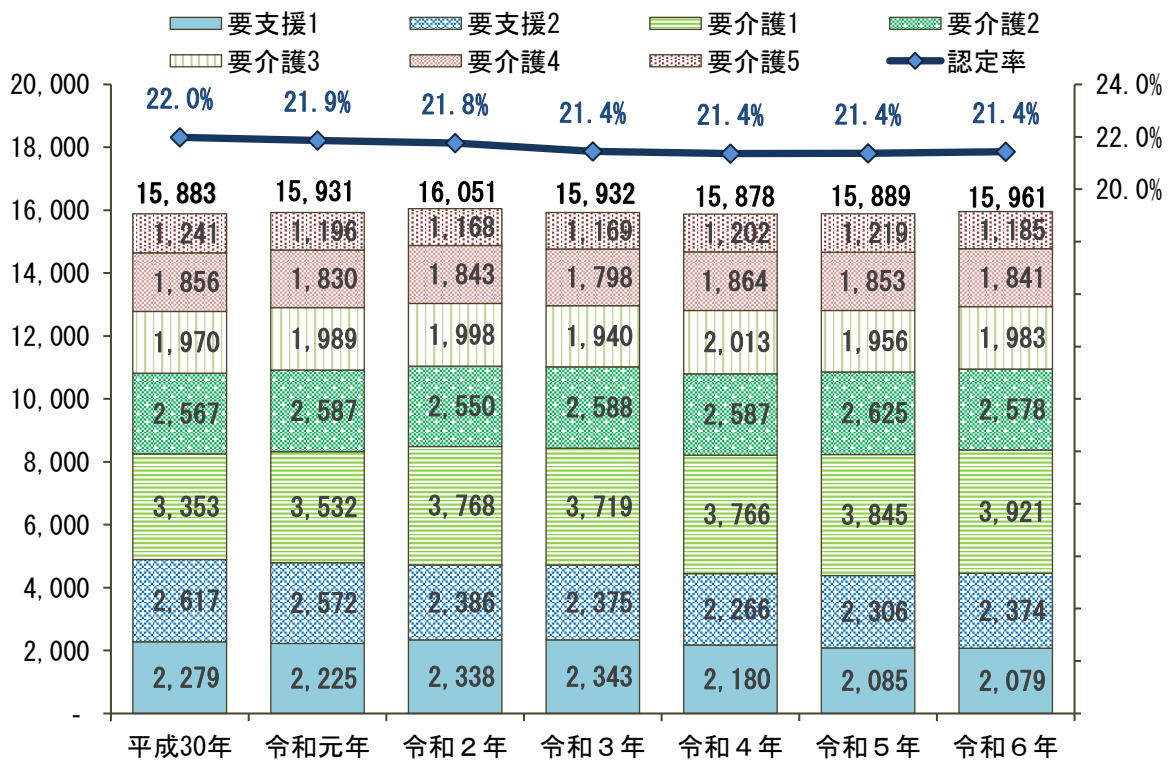
第1号被保険者における要介護（要支援）認定者数及び認定率の推移

第1号被保険者における要介護認定者数及び認定率

項目	第7期介護保険事業計画			第8期介護保険事業計画			第9期
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
第1号被保険者数（人）	72,255	72,861	73,756	74,303	74,324	74,340	74,485
要介護認定者数（人）	15,883	15,931	16,051	15,932	15,878	15,889	15,961
65～74歳（人）	1,808	1,750	1,781	1,880	1,705	1,572	1,522
75～84歳（人）	6,007	5,845	5,620	5,291	5,207	5,368	5,473
85歳以上（人）	8,068	8,336	8,650	8,761	8,966	8,949	8,966
要介護認定率（％）	22.0	21.9	21.8	21.4	21.4	21.4	21.4
構成割合							
65～74歳（％）	2.5	2.4	2.4	2.5	2.3	2.1	2.0
75～84歳（％）	8.3	8.0	7.6	7.1	7.0	7.2	7.3
85歳以上（％）	11.2	11.4	11.7	11.8	12.1	12.0	12.0

【実績値】厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報 各年度9月末時点（令和6年度のみ6月末時点）

<※認定率＝65歳以上の要介護・要支援認定者数÷第1号被保険者数（65歳以上）>



(4) 第8期介護保険事業計画における介護給付費の計画と実績の比較

第8期介護保険事業計画における介護給付費は、各年度とも計画を下回った。

内訳のうち施設サービスのみ実績値と計画値との比較において10%以上の乖離が出ているが、その一因として、「介護療養型医療施設」から「介護医療院」への転換※が計画通りに進まなかったということがある。

それを除けば、全体的に安定した介護給付がなされている。

※ 介護保険制度の改正により平成30年度から「介護医療院」が創設され、既存の「介護療養型医療施設」は令和5年度末までに「介護医療院」へ転換することとされている。

ア 介護給付（予防給付）費

区 分		第8期介護保険事業計画				
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比較	
					増 減 (R5-R4)	増減率
計 画 値	総給付費 (千円)	24,042,393	24,812,924	25,290,365	477,441	1.9%
	施設サービス (千円)	7,451,225	7,698,821	7,630,198	-68,623	-0.9%
	居住系サービス (千円)	2,634,584	2,671,238	2,706,904	35,666	1.3%
	在宅サービス (千円)	13,956,584	14,442,865	14,953,263	510,398	3.5%
	第1号被保険者1人あたり給付費 (円)	323,203	332,557	338,146	5,589	1.7%
実 績 値	総給付費 (千円)	22,458,586	22,555,748	23,086,462	530,714	2.4%
	施設サービス (千円)	6,691,227	6,709,795	6,798,855	89,060	1.3%
	居住系サービス (千円)	2,569,555	2,570,804	2,617,363	46,559	1.8%
	在宅サービス (千円)	13,197,804	13,275,149	13,670,244	395,095	3.0%
	第1号被保険者1人あたり給付費 (円)	302,029	303,908	339,500	35,592	11.7%
実 績 値 / 計 画 値	総給付費	93.4%	90.9%	91.3%		
	施設サービス	89.8%	87.2%	89.1%		
	居住系サービス	97.5%	96.2%	96.7%		
	在宅サービス	94.6%	91.9%	91.4%		

<サービスの種類分類>

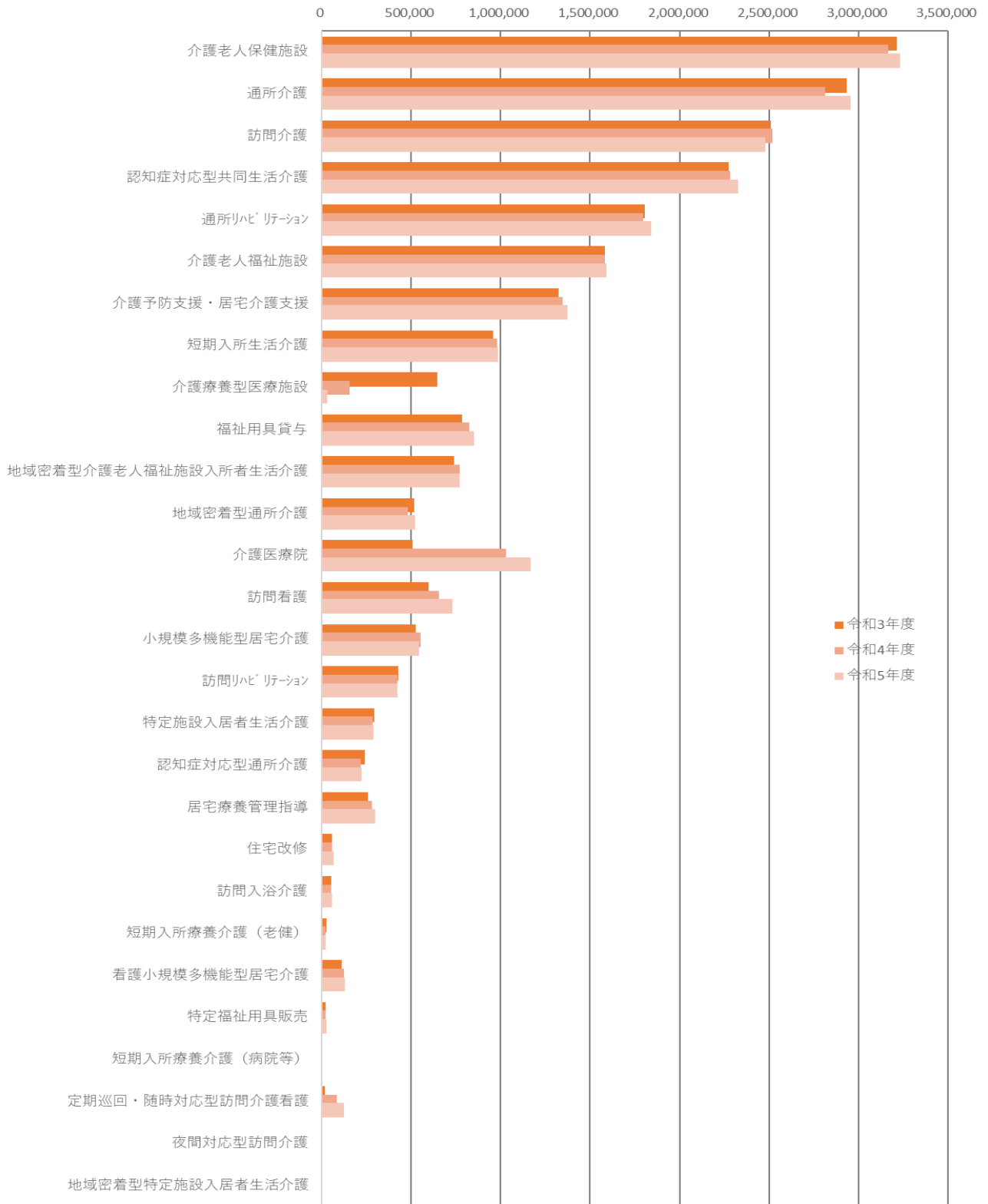
在宅サービス	訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、通所介護、地域密着型通所介護、通所リハビリテーション、短期入所生活介護、短期入所療養介護（老健・病院等・介護医療院）、福祉用具貸与、特定福祉用具販売、住宅改修、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、夜間対応型訪問介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防支援・居宅介護支援
居住系サービス	特定施設入居者生活介護、地域密着型特定施設入居者生活介護、認知症対応型共同生活介護
施設サービス	介護老人福祉施設、地域密着型介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護医療院、介護療養型医療施設

イ サービス別介護給付費の計画と実績の比較

		計画値				実績値				実績値／計画値			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	第8期累計	令和3年度	令和4年度	令和5年度	第8期累計	令和3年度	令和4年度	令和5年度	第8期累計
居宅 (介護予防)サービス	訪問介護	2,487,198	2,575,483	2,671,850	7,734,531	2,509,399	2,520,770	2,480,224	7,510,393	100.9%	97.9%	92.8%	97.1%
	訪問入浴介護	61,614	63,021	67,548	192,183	56,832	56,891	57,383	171,106	92.2%	90.3%	85.0%	89.0%
	訪問看護	542,019	559,880	580,149	1,682,048	599,886	655,805	730,922	1,986,613	110.7%	117.1%	126.0%	118.1%
	訪問リハビリテーション	400,178	413,318	426,385	1,239,881	430,416	423,052	424,313	1,277,781	107.6%	102.4%	99.5%	103.1%
	居宅療養管理指導	238,350	246,844	256,055	741,249	260,956	280,180	298,518	839,654	109.5%	113.5%	116.6%	113.3%
	通所介護	3,272,489	3,388,378	3,504,099	10,164,966	2,931,779	2,813,669	2,954,660	8,700,108	89.6%	83.0%	84.3%	85.6%
	通所リハビリテーション	1,944,693	2,010,071	2,067,962	6,022,726	1,804,724	1,795,532	1,840,785	5,441,041	92.8%	89.3%	89.0%	90.3%
	短期入所生活介護	1,217,704	1,261,369	1,317,034	3,796,107	958,737	981,362	985,626	2,925,725	78.7%	77.8%	74.8%	77.1%
	短期入所療養介護(老健)	48,687	50,281	52,086	151,054	26,899	24,386	22,491	73,776	55.2%	48.5%	43.2%	48.8%
	短期入所療養介護(病院等)	6,336	6,340	7,446	20,122	4,584	2,777	642	8,003	72.3%	43.8%	8.6%	39.8%
	福祉用具貸与	758,688	784,751	812,667	2,356,106	787,610	825,539	854,512	2,467,661	103.8%	105.2%	105.1%	104.7%
	特定福祉用具販売	27,990	28,950	29,887	86,827	25,037	25,389	30,046	80,472	89.4%	87.7%	100.5%	92.7%
	住宅改修	65,296	65,978	66,840	198,114	57,499	60,495	66,750	184,744	88.1%	91.7%	99.9%	93.3%
	特定施設入居者生活介護	296,001	303,467	311,323	910,791	296,125	287,228	291,729	875,082	100.0%	94.6%	93.7%	96.1%
地域密着型サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0	0	0	0	20,351	84,433	126,635	231,419				
	夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	0	0	0	0				
	地域密着型通所介護	613,359	636,003	656,904	1,906,266	517,160	481,727	523,279	1,522,166	84.3%	75.7%	79.7%	79.9%
	認知症対応型通所介護	266,577	276,434	289,306	832,317	241,306	218,597	225,988	685,891	90.5%	79.1%	78.1%	82.4%
	小規模多機能型居宅介護	541,625	562,065	587,693	1,691,383	526,921	555,452	542,806	1,625,179	97.3%	98.8%	92.4%	96.1%
	認知症対応型共同生活介護	2,338,583	2,367,771	2,395,581	7,101,935	2,273,430	2,283,576	2,325,634	6,882,640	97.2%	96.4%	97.1%	96.9%
	地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0				
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	788,135	788,573	788,573	2,365,281	738,753	773,454	772,464	2,284,671	93.7%	98.1%	98.0%	96.6%
看護小規模多機能型居宅介護	127,324	131,902	134,895	394,121	114,407	124,202	130,172	368,781	89.9%	94.2%	96.5%	93.6%	
介護予防支援・居宅介護支援	1,336,457	1,381,797	1,424,457	4,142,711	1,323,301	1,344,891	1,374,492	4,042,684	99.0%	97.3%	96.5%	97.6%	
施設サービス	介護老人福祉施設	1,651,729	1,652,646	1,652,646	4,957,021	1,583,522	1,583,773	1,590,379	4,757,674	95.9%	95.8%	96.2%	96.0%
	介護老人保健施設	3,338,404	3,340,257	3,340,257	10,018,918	3,213,411	3,163,059	3,231,836	9,608,306	96.3%	94.7%	96.8%	95.9%
	介護医療院	970,877	1,412,576	1,680,791	4,064,244	508,495	1,031,646	1,169,698	2,709,839	52.4%	73.0%	69.6%	66.7%
	介護療養型医療施設	702,080	504,769	167,931	1,374,780	647,046	157,863	34,478	839,387	92.2%	31.3%	20.5%	61.1%
総給付費	24,042,393	24,812,924	25,290,365	74,145,682	22,458,586	22,555,748	23,086,462	68,100,796	93.4%	90.9%	91.3%	91.8%	

(単位:千円)

サービス種別別給付費の推移（単位：千円）



ウ その他の給付費

項目		第8期介護保険事業計画				
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比較	
					増減 (R5-R4)	増減率
計画値	高額介護サービス費 (千円)	559,578	569,318	581,632	12,314	2.2%
	高額医療合算サービス費 (千円)	69,761	71,854	74,010	2,156	3.0%
	特定入所者介護サービス (千円)	515,139	478,235	488,580	10,345	2.2%
	審査支払手数料 (千円)	36,706	38,174	39,701	1,527	4.0%
実績値	高額介護サービス費 (千円)	625,207	612,834	641,803	28,969	4.7%
	高額医療合算サービス費 (千円)	70,627	71,360	73,070	1,710	2.4%
	特定入所者介護サービス (千円)	527,562	463,978	456,766	-7,212	-1.6%
	審査支払手数料 (千円)	35,129	35,825	36,522	697	1.9%
実績値 ／ 計画値	高額介護サービス費	111.7%	107.6%	110.3%		
	高額医療合算サービス費	101.2%	99.3%	98.7%		
	特定入所者介護サービス	102.4%	97.0%	93.5%		
	審査支払手数料	95.7%	93.8%	92.0%		

エ 地域支援事業費

地域支援事業費の実績については、次の表のとおりである。

実績値のうち「一般介護予防事業費」が大幅に増加しているが、これはコロナ禍以降「元気高齢者づくり事業」の参加人数の増加や「地域リハビリテーション活動支援事業」の件数が増加したことによるものと思われる。

しかし、計画値にはまだまだ届かないので、今後も事業の推進に力を入れていく必要がある。

項目		第8期介護保険事業計画				
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比較	
					増減 (R5-R4)	増減率
計画値	介護予防・生活支援サービス事業費 (千円)	777,000	788,950	801,261	12,311	1.6%
	一般介護予防事業費 (千円)	36,405	36,405	36,405	0	0.0%
	包括的支援事業・任意事業費 (千円)	254,749	255,749	256,749	1,000	.4%
実績値	※介護予防・生活支援サービス事業費 (千円)	667,777	621,220	622,882	1,662	0.3%
	一般介護予防事業費 (千円)	11,633	13,640	18,698	5,058	37.1%
	包括的支援事業・任意事業費 (千円)	234,485	237,760	239,975	2,215	0.9%
実績値 / 計画値	介護予防・生活支援サービス事業費	85.9%	78.7%	77.7%		
	一般介護予防事業費	32.0%	37.5%	51.4%		
	包括的支援事業・任意事業費	92.0%	93.0%	93.5%		

(※介護予防・生活支援サービス事業費実績値の内訳)

(単位：千円)

区分		実績値			前年度比較	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	増減数 (R5-R4)	増減率
介護予防・生活支援サービス (総合事業)	サービス事業費 ①	593,152	551,998	557,061	5,063	.9%
	訪問型サービス	300,685	278,691	277,756	△ 935	△ .3%
	通所型サービス	292,467	273,307	279,305	5,998	2.2%
	通所型短期集中介護予防事業 ②	267	300	241	△ 59	△ 19.7%
	高額介護相当事業 ③	1,272	1,147	723	△ 424	△ 37.0%
	高額医療合算介護相当事業 ④	976	1,021	1,063	42	4.1%
	審査支払手数料 ⑤	3,756	3,517	3,438	△ 79	△ 2.2%
	介護予防ケアマネジメント ⑥	67,464	62,322	59,630	△ 2,692	△ 4.3%
	総合事業事務費 ⑦	890	915	726	△ 189	△ 20.7%
介護予防・生活支援サービス 合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦)		667,777	621,220	622,882	1,662	.3%

(5) 第8期介護保険事業計画における各施策の取組評価

基本目標1 地域ぐるみ支え合い体制づくり(地域包括ケアシステムの推進)

施策1 いつまでも元気で暮らせる介護予防・健康づくりの推進

- (1) 介護予防・健康づくりの啓発・推進 (2) 健康の保持・増進 (3) 疫病の早期発見・早期治療 (4) 住民主体の通いの場の取組推進と他事業の連携
 (5) 自立支援型ケアマネジメントの環境整備 (6) 保険事業と介護予防の一体的な実施

【主な事業の実施状況】

○65歳以上を対象とした運動教室（きっかけ運動教室・からだが好きフィットネス教室・らくらくエクササイズ・元気にエクササイズ）や介護予防教室（のぼそう!!健康寿命教室・若返りカアップ教室）を実施しており、運動以外の健康教育についても機会をとらえ実施した。また、地区公民館等での高齢者の集まりにおいても教育を実施した。

○専門職による健康相談（医師・歯科医師・精神科医師・保健師・管理栄養士・健康運動指導士）に加え、地区公民館等での独居老人昼食会・老人会等においても健康相談を実施した。

○市内19か所の公民館やコミュニティセンター等で、元気高齢者づくり事業を週1～2回、1回当たり90分開催。

○地域住民主体による通いの場の充実と、リハビリテーション専門職を生かした自立支援の視点による筋力向上のための体操の普及を目的に、地域住民が主体となって設置するいきいき百歳体操教室に対し理学療法士を派遣するなどの支援を行った。

○健康増進法に基づき、胃がん、肺がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がんの各がん検診のほか、特定健康診査非対象者に対する健康診査、また、市単独事業として、もの忘れ検診、前立腺がん検診を実施。検診結果が要精密検査になった場合、精密検査協力医療機関を紹介し、早期発見・早期治療につなげている。

○重症化予防については、糖尿病・減塩教室を開催し、糖尿病・CKD（慢性腎臓病）・高血圧・脂質異常症・高尿酸血症・心房細動等についても、来所や訪問での保健指導を実施した。

【成果指標】

指標	現状値		目標値	達成状況
	令和元年度	令和4年度	令和5年度	
①主観的健康観が「とてもよい」+「まあよい」の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	71.7%	70.5%	上げる	未達成
②手段的自立度が5点の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	82.4%	81.1%	上げる	未達成
③新規要介護等認定者の平均年齢 (介護保険総合データベース)	81.9歳	82.0歳	上げる	達成
④住民主体の通いの場の箇所数 (介護予防・日常生活支援総合事業等の実施状況に関する調査)	46か所	48か所	51か所	概ね達成
⑤通いの場へのリハビリテーション等の専門職派遣人数 (いきいき百歳体操・地域リハビリテーション活動支援事業延派遣人数)	238人	61人	262人	未達成

【目標と自己評価】

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021～2023年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
介護予防把握事業	介護予防の情報が届かない高齢者にアウトリーチできる重要な事業と考える。また、保健事業と介護予防の一体的な実施が開始されると、介護だけでなく、医療につながっていない高齢者を重点的に訪問するなど、効率的な運用が期待できる。訪問の優先順位を検討しながら、一人一人の生活や運動の状況に応じた介護予防活動につなげる。		目標	1,300件	1,350件	1,400件	(2021年度) 高齢者の自宅を訪問し、実態把握や介護予防に関するチラシのポスティングを実施した。 (2022年度) コロナ感染状況が少し落ち着いてきたため、集いの場・いきいき百歳体操の集まりに参加し、参加者に同意を得て実態調査を行った。2022年度はチラシのポスティングは中止した。 (2023年度) 集いの場・いきいき百歳体操の集まりに参加し、参加者に同意を得て実態調査を行った。	△	コロナ感染状況の影響により、不急の訪問や接触を控えたことから、件数としては目標を大きく下回った。しかし、中でも民生委員等の関係機関と連携し、介護や医療につながっていない等の高齢者について重点的に訪問した、R6年度については、さらに事業の効率的・効果的实施に向けて、介護予防手帳の活用方法、重点的に訪問する対象者を再検討する。
		3,398件	実績	1,608件	137件	138件			
健康教育	要介護状態になる要因は脳血管疾患等による生活習慣病に起因する疾患である場合が多いため、生活習慣病予防等の健康教育と生活の機能維持・向上対策として、「転倒骨折予防」「閉じこもり予防」等の教育の推進に努めている。		目標	4,000人	5,000人	5,000人	(2021・2022・2023年度) 新型コロナウイルス感染症予防対策として定員数を変更して実施した。65歳以上を対象とした運動教室（とくしま健康教室・からだの教室）や介護予防教室（のぼそう健康寿命教室）を実施している。また地区公民館等で高齢者の会等での教育を実施している。	○	R6年度については、教室や教育を継続し、生活習慣病予防等の健康教育と生活の機能維持・向上を目的に「転倒骨折予防」「閉じこもり予防」等の教育の推進に努めていく。
		1,764人	実績	3,056人	3,858人	5,504人			
健康相談	予約制で実施する専門職による健康相談（医師・歯科医師・精神科医師・保健師・管理栄養士・運動指導士）に加え、地区公民館等で独居老人昼食会・老人会等で健康相談を実施している。		目標	500人	1,500人	2,000人	(2021・2022・2023年度) 予約制で実施する専門職による健康相談（医師・歯科医師・精神科医師・保健師・管理栄養士・健康運動指導士）に加え、地区公民館等で独居老人昼食会・老人会等で健康相談を実施している。	△	R6年度についても、昨年と同様、健康長寿課内・外において健康相談を実施していく。地区での健康相談も徐々に回復すると考えられるため実績も増加すると考えられる。広報等を通じて事業をPRしていく。
		742人	実績	728人	796人	934人			
重症化予防健康相談	特定健診の受診者に対し、保健師や管理栄養士による生活習慣病予防のための保健指導を実施。		目標	800人	1,000人	1,100人	(2021・2022・2023年度) 健診結果をもとに対象者の抽出基準を疾患ごとに決め、全員にアプローチし、その後評価・分析をしている。	△	R6年度についても、昨年と同様、健康長寿課内・外において保健指導・健康相談を実施していく。健診受診者に対しアプローチをしているため特定健診の受診をすすめていく。
		1,057人	実績	893人	898人	560人			

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021～2023年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
元気高齢者づくり事業 ○市内の公民館やコミセン等での運動教室「元気高齢者づくり教室」の活動支援	各地区で参加できる軽度の運動教室の実施により、高齢者の健康と体力の維持・増進を図ることで、元気な高齢者が増えるとともに、参加者間の交流やつながりが期待できる。	4,087人	目標	28,200人	28,300人	28,400人	(2021年度) 市内17カ所ですべて週1～2回の健康教室を開催した。指導者養成講座を開催。 (2022年度) 市内18カ所ですべて週1～2回の健康教室を開催した。指導者養成講座を開催。 (2023年度) 市内18カ所ですべて週1～2回の健康教室を開催した。指導者養成講座を開催。	△	コロナの影響により、教室の開催については、状況を見ながら休止と再開を繰り返すことから、目標を下回っているが、昨年度と比べると増加している。教室休止時は健康教育として、手紙を送った。R6年度については、各教室の参加者が増加するよう、広報や他事業との連携強化に取り組む。
いきいき百歳体操普及啓発事業 ○地域住民が主体となり取り組む運動教室の活動支援	地域住民主体による通いの場の充実と、リハビリ専門職を活かした自立支援の視点による筋力向上のための体操の普及を図る。	31教室	目標	40教室	45教室	50教室	(2021年度) 各教室代表者に対し、感染症対策やケーブルテレビで放送する体操の案内を毎月実施している。また、3教室の新規開設を支援した。体力測定や評価、教室代表者連絡会議はコロナの感染状況をみながら実施した。 (2022年度) 各教室代表者に対し、感染症対策やケーブルテレビで放送する体操の案内を毎月実施している。また、2教室の新規開設を支援した。体力測定や評価、教室代表者連絡会議はコロナの感染状況をみながら実施した。 (2023年度) コロナの5類移行に伴い、各教室やイオンモールでの体験イベントも順次再開した。また、1教室の新規開設を支援した。	△	1教室の新規開設を支援したが1教室が閉鎖となり、実績はR4年度と変わらず。コロナが5類に移行したとはいえ、それまで休んでいた人がフレイルになったり、参加する意欲がなくなったりと各教室参加者の確保や教室の継続に影響は残っている状況。 今後は体操イベントでの普及啓発や教室への講師派遣など活動支援を継続しつつ、教室の立ち上げや活動費用の補助事業についても広報し、地域での活動を支援していく。
地域リハビリテーション活動支援事業 ○介護サービス事業所が実施する職員研修への専門職派遣	介護サービス事業所の職員等を対象に、機能訓練や日常生活動作等に関わる知識・技術の伝達を行い、専門職等の介護技術や資質の向上による介護予防効果の向上を図る。	0件 DVD作成 貸出4件 (延)	目標	30件	35件	40件	(2021年度) 介護職員等研修支援事業用DVDの貸出を実施した。 (2022年度) 専門職派遣について、オンラインでの派遣も可能という形に変更して再開し、住民主体の通いの場への派遣も開始した。 (2023年度) 新型コロナウイルスが5類に移行したことで、通常通り実施することができた。	△	R5年度は通常通り実施することができた。実績は目標には届かなかったが、増加傾向である。今後も事業の普及啓発を継続するとともに、派遣団体や選択できる研修メニューの充実を図る。
自立支援型ケア会議の開催	自立支援に資するケアマネジメントとなるよう、医療・介護等の多職種、生活支援コーディネーターが協働して、介護保険等のサービスに限らず検討する自立支援型ケア会議を継続して実施することで、高齢者のQOLの向上とプランのスキルアップを図る。	6回	目標	6回	6回	6回	(2021年度) 奇数月に自立支援型ケア会議を開催した（R4.3月末実績：オンライン6回18件）。また、年度内に市・包括・各アドバイザーの意識共有と意見交換のため、連絡会を開催。 (2022年度) 奇数月に自立支援型ケア会議を開催した。また、年度内に市・包括・各アドバイザーの意識共有と意見交換のため、連絡会を開催。 (2023年度) 奇数月に自立支援型ケア会議を開催した。また、年度内に市・包括・各アドバイザーの意識共有と意見交換のため、連絡会を開催。	○	オンラインで実施することで、各地区を担当する生活支援コーディネーターが参加し、地域の特性や利用可能な資源情報を提供した。 R6年度については、継続して会議を開催し、自立支援に資するケアマネジメントの普及啓発に取り組む。また、生活支援体制整備事業等と連携を続け、地域課題を発見し、必要に応じて政策形成につなげる。

施策2 生きがいのある地域づくりと「社会参加」の促進

- (1) 生きがい対策の充実 (2) 就業の支援 (3) 外出の支援 (4) 社会参加の活動支援

【主な事業の実施状況】

○高齢者が自ら教養を高め、社会参加の促進や豊かな生活を送れることを目指した高齢者の生きがいづくりと健康づくりを推進するため、高齢者の自主的な活動団体である単位老人クラブ及び老人クラブ連合会に活動費の助成を行った。

○高齢者の孤立の防止や社会参加の促進を図るため、「徳島市シニアクラブ連合会」に委託して、地域の一人暮らしや寝たきり高齢者の家庭訪問活動を実施した。

○臨時的かつ短期的な就業を通じて高齢者の自己の労働能力を活用し、自らの生きがいの充実や社会参加を希望する高齢者の就労機会の増大と福祉の増進を図るとともに、高齢者の能力を生かした活力ある地域社会づくりを目的として活動する徳島市シルバー人材センターに運営費等の補助金を助成を行った。

【成果指標】

指標	現状値		目標値	達成状況
	令和元年度	令和4年度	令和5年度	
①ボランティア等に参加している高齢者の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	14.4%	11.3%	15.8%	未達成
②スポーツ関係のグループ等に参加している高齢者の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	20.9%	18.6%	23.0%	未達成
③趣味関係のグループに参加している高齢者の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	29.5%	24.5%	32.5%	未達成
④学習・教養サークルに参加している高齢者の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	12.3%	9.4%	13.5%	未達成
⑤収入のある仕事をしている高齢者の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	27.7%	25.4%	30.5%	未達成
⑥閉じこもりのリスク (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	17.8%	21.9%	16.0%	未達成

【目標と自己評価】

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021～2023年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
老人クラブの育成	高齢者自らが教養を高め、社会参加の促進や豊かな生活が送れることを目指した高齢者の生きがいを健康づくりを推進するため、老人クラブの育成に努める。		目標	6,300人	6,400人	6,500人	(2021, 2022, 2023) 運営費補助金の支出 広報活動への協力 イベントへの協力	△	コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、コロナ前の様な活動が再開されたが、人が集まる場に参加される高齢者の戻りが鈍い状況である。引き続き、多様化する高齢者の嗜好や住民ニーズに沿った効果的な取組を進めるとともに、広報活動の充実を図っていく。
		5,652人	実績	5,501人 (R3.4月現在)	5,398人 (R4.4月現在)	5,289人 (R5.4月現在)			
シルバー人材センターへの支援	自らの生きがいの充実や社会参加を希望する高齢者の就労機会の増大と福祉の増進を図るとともに、高齢者の能力を生かした活力ある地域社会づくりを目指すセンターの活動を支援する。		目標	1,450人	1,500人	1,550人	(2021, 2022, 2023) 運営費補助金の支出 広報活動への協力	△	コロナ前の実績となるような急激な回復を見せており、目標未達成ではあるものの会員数が伸びた。また、実績も受託・派遣事業ともに伸び、特に派遣事業では、前年度から約10%増の過去最高実績となった。引き続き、広報活動を充実させ、多様化する高齢者の働き方に沿った効果的な取り組みを進めていく。
		1,284人	実績	1294人	1232人	1283人			

施策3 地域包括ケアシステムの推進と福祉サービスの充実

(1) 地域包括支援センターの機能強化

(2) 介護予防・生活支援サービス事業の推進

(3) 高齢者福祉サービスの充実

(4) 家族介護者の支援

【主な事業の実施状況】

○退院直後など身体状態の変化時に期間を限定して行う自立に向けての通所型短期集中介護予防サービス「通所型サービスC」について、7か所の社会福祉法人等の施設において、週1回3か月のプログラムで実施した。

○地域ケア会議については、検討内容により「地域ケア個別ケース会議」（自立支援ケア会議、支援困難個別ケース会議）、「地域ケア推進会議（全体会議）」等に分けて実施しています。介護支援専門員が抱える支援困難事例や地域住民や関係機関による支援要請事例等について、多職種による検討を行うほか、自立支援に資するケアマネジメントの支援並びに地域に不足している社会資源の把握及び開発につながるよう会議を開催した。

○自立支援ケア会議について、平成31年3月にプレ会議を開催して以降、2か月に1回のペースで開催。また、自立支援型のケアプランをテーマに研修会を開催した。

○市内における住民運営の通いの場実施団体及び介護予防・生活支援サービス事業の提供事業所等が実施する職員研修会に対し、その要請に応じて各分野における専門職の講師を派遣し、介護予防に関する知識・技術等を指導することにより、介護職員等の資質向上を図っている。

【成果指標】

指標	現状値		目標値	達成状況
	令和元年度	令和4年度	令和5年度	
①地域包括支援センターを知っている高齢者の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	39.7%	39.7%	43.7%	未達成
②地域包括支援センターの権利擁護事業・虐待に関する相談件数	4,642件	5,581件	4,781件	達成
③地域包括支援センターの支援困難事例に関する相談件数	681件	1,001件	701件	達成
④地域ケア会議の個別会議の検討件数	39件	29件	43件	未達成
⑤生活支援コーディネーターの認知度 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	1.6%	1.2%	8.0%	未達成
⑥過去1年間に介護のために主な介護者が仕事を辞めた割合 (在宅介護実態調査)	4.8%	4.1%	下げる	達成

【目標と自己評価】

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021～2023年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
地域包括支援センターの 運営	地域住民の心身の健康保持 及び生活の安全のために必 要な援助を行うことによ り、保健・医療の向上及び 福祉の増進を包括的に支援 することを目的に、地域包 括支援センターを設置して いる。		目標	5,402件	5,442件	5,482件	(2021・2022・2023年度) 総合相談支援・権利擁護事業、包括的継続的ケア マネジメント事業、地域ケア会議の充実の他、認 知症総合支援事業、生活支援体制整備事業、介護 予防把握事業などを実施した。	○	同センターの認知度の高まりとともに、 権利擁護、虐待、支援困難事例の困難 ケース相談件数が増加した。引き続き、 相談窓口の周知を図るとともに、関係機 関との連携体制を構築しながら、支援困 難事例等への対応力強化を図る。
		困難ケー ス相談件 数5,323件	実績	6,034件	6,582件	7,265件			
通所型短期集中介護予防 サービス (通所型サービスC)	要介護状態にならないよ う、運動習慣等を身につけ てもらふことを目的とし て、介護サービス事業所等 に委託し、3か月に限定した 運動機能向上のプログラム を実施。サービス終了後に 地域等の介護予防活動につ なげる。		目標	45人	50人	55人	(2021・2022年・2023年度) 6事業所で運動機能向上プログラムを実施した。	△	新型コロナが5類に移行したとはいえ、 医療介護現場は感染症対策には注意して おり、サービスCの提供を休止を継続し ている事業所もある。 R6年度についても、フレイルサポー ター養成事業で実施したフレイルチェッ クのフレイルリスク者を専門職につなぐ 先として連携した情報提供や周知に取り 組む。 また、サービスの提供範囲を拡大するた め、新規にサービスを提供可能な事業所 の参加を検討する。
		39人	実績	20人	19人	16人			
在宅介護の支援 ○家族介護慰労金支給事 業	要介護4又は5の認定を受 けている在宅の要介護高齢 者を、介護保険サービス を利用せずに介護している家 族に対して慰労金の支給を 行い、家族の身体的・精神 的・経済的負担の軽減を図 る。		目標	5件	5件	5件	(2021, 2022, 2023) 家族介護者に対し、慰労金を支給した。	△	要介護4又は5の認定を受けている人が 対象であり、通常は介護サービスを受け ているため、本事業の条件として、介護 保険サービスの利用をしていないことや 入院をしていないことが要件のため希少 であり、本制度を事前知った上で利用 することは考えにくい。効果的な広 報方法を検討する。
		2件	実績	2件	3件	3件			

施策4 安心して暮らすことができる支え合いの地域づくり

- (1) 高齢者の見守り活動の推進 (2) 地域の支え合い活動の推進 (3) 高齢者の権利擁護に係る施策の推進 (4) 地域で安心して暮らすための支援
(5) ニーズに応じた施設・住まいの支援

【主な事業の実施状況】

○地域包括支援センターでは、住み慣れた地域で安心して暮らしていくことができるよう、関係者とのネットワークを構築するとともに、高齢者の心身の状況や生活の実態、必要な支援等を把握、相談を受け、適切な保健・医療・福祉サービス、機関又は制度の利用につなげる等の支援を行っています。また、権利擁護の観点から対応が必要と判断される場合は、虐待や困難事例の対応を行うほか、成年後見制度等も活用している。

○徳島市地域包括支援センター及び徳島市社会福祉協議会に生活支援コーディネーターを配置し、住民主体による高齢者が住みよいまちづくりを推進するため、多家良地区、八万地区、佐古地区、渭東地区において地域住民による地域課題の解決に向けた検討を行う「協議体」を編成している。

【成果指標】

指標	現状値		目標値	達成状況
	令和元年度	令和4年度	令和5年度	
①老後も安心して生活できると感じる市民の割合 (市民満足度調査)	38.5%	38.0%	45.3%	未達成
②見守りネットワーク（とくしま見守りねっと）登録事業者数	24か所	40か所	28か所	達成
③「成年後見制度」を知っている人の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	43.1%	46.6%	47.4%	概ね達成

【目標と自己評価】

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021～2023年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
生活支援体制整備事業の 実施 ○生活支援コーディネーターの配置	協議体と連携し、生活支援等サービスの担い手の養成、サービスの開発などの役割を果たす人材として、生活支援コーディネーターを選任、活動について支援することにより、地域の支え合い活動を推進する。	4人	目標	4人	4人	4人	(2021・2022・2023年度) 地域住民や地域で活動する人や団体等を訪問し、信頼関係の構築、情報提供を実施した。また、コーディネーター間の地域資源の共有、自立支援ケア会議への参加、SNSでの情報発信などに取り組んだ。	○	生活支援コーディネーターが効果的に動ける仕組みづくりの一環として、アドバイザーの設置、担当者会議の定期開催を行っている。自立支援ケア会議との連携を進めたほか、Instagramでの情報発信を行った。サービスの開発にはいたっていないが、地域ケア会議等で政策系形成が必要となった時、住民からの機運が高まった時に集中的に取り組むものとしている。 R6年度については、専門職のコーディネーター（地域包括4人、市社協5人）を配置し、市・地域包括・市社協で協働して地域の支え合い活動推進に取り組む。
			実績	4人	4人	6人			
社会福祉大会の開催支援	徳島市社会福祉協議会が主催する社会福祉大会の開催経費を一部補助し、地域における相互支え合いの意識を高める。	78	目標	350人	360人	360人	(2021) 大会開催経費補助 (2022) 大会開催経費補助 (2023) 大会開催経費補助	△	コロナが5類へ移行したことから、通常開催が出来たため、参加者が増加したものの、目標は未達成であった。地域福祉の推進に向け、福祉への理解と関心を深めるため、より多くの社会福祉関係者が参加できるよう、引き続き支援していく。
			実績	0人	33人	119人			
ボランティア等の活動支援	徳島市社会福祉協議会が運営するボランティアセンターの運営経費を補助し、互助の意識向上及び社会参加の促進により介護予防につなげていく。	3,176	目標	4350人	4400人	4400人	(2021) ボランティアセンター運営経費補助 (2022) ボランティアセンター運営経費補助 (2023) ボランティアセンター運営経費補助	△	地域福祉を支える担い手不足が課題となっていることから、ボランティア活動の活性化のため、引き続き支援していく。
			実績	2840人	2699人	2838人			
災害ボランティアコーディネーター養成	災害ボランティアコーディネーター養成講座の開催経費を補助し、地域力の強化、互助の意識向上及び社会参加の促進を図り、介護予防につなげていく。	49	目標	60人	60人	60人	(2021) 養成講座開催経費補助 (2022) 養成講座開催経費補助 (2023) 養成講座開催経費補助	△	地域福祉を支える担い手不足が課題となっており、地域力を高めるほか、災害時に限らず平時における地域の互助意識向上のため、引き続き支援していく。
			実績	0人	41人	24人			

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021～2023年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
高齢者・障害者等の 権利擁護	権利擁護センター及び成年 後見支援センターにおいて 権利擁護支援を行うことに より、高齢者等の地域生活 を支え、自立支援につなげ ていく。		目標	260人	270人	270人	(2021) 成年後見制度に関する相談・支援等を行うとともに、中核機関（権利擁護センター）の設置、関係機関との連携体制を構築した。 (2022) 成年後見制度に関する研修・講演会の実施、支援方針等検討する会議を開催した。 (2023) 成年後見制度に関する研修・講演会の実施、支援方針等検討する会議を開催した。	○	判断能力が十分でない人が尊厳のある本人らしい生活を継続できるよう、引き続き、成年後見制度利用を含めた権利擁護支援に取り組む。
		168	実績	200人	203人	502人			
在宅介護の支援 ○住宅改修支援事業	在宅の身体虚弱な高齢者を対象に、建築の専門家等と連携を図り、風呂、トイレの改造や廊下等の手すりの設置等、高齢者が安全に在宅生活を送れるよう住宅の改造について適切な助言を行う。		目標	17件	19件	21件	(2021, 2022, 2023) 在宅高齢者のお住まいに建築士等リフォームヘルパーを派遣し、住宅の困りごとに対応し、住宅改造の助言を行った。また、利用実績がない年も、登録リフォームヘルパー内で研修をしたり、一般人向けに講習を行うなどした。	△	多職種を派遣する事業であり、適切な住宅改修促進が期待されるが、申請時点ですでに住宅改修設計が出来ている場合が多いため、設計前での活用を促す広報が必要と考えている。
		5件	実績	3件	1件	0件			
高齢者福祉サービスの充実 ○高齢者住宅等安心確保事業	高齢者世話付住宅（シルバーハウジング）に生活援助員を派遣し、生活指導・相談・安否確認・一時的な家事援助・緊急時の対応等のサービスを提供し、居住する高齢者が自立し安全で快適な生活を営めるように支援する。		目標	2カ所	2カ所	2カ所	(2021, 2022, 2023) 高齢者住宅等安心確保事業を実施した。	○	緊急時の対応、生活・生きがいや健康保持・増進等の相談を実施した。2カ所と設置は限られているが、高齢者が地域で生活するうえでの安心につながる事業となっている。
		2カ所	実績	2カ所	2カ所	2カ所			

施策5 認知症の人が希望を持って暮らせる共生の地域づくり

- (1) 普及啓発・本人発信支援 (2) 介護予防社会参加を通じた認知症予防 (3) 早期診断・早期対応、家族介護者の支援 (4) 認知症バリアフリーの推進

【主な事業の実施状況】

○①地域の医療・介護の資源の把握②在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討③切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進④医療・介護関係者の情報共有の支援⑤在宅医療・介護連携に関する相談支援⑥医療・介護関係者の研修⑦地域住民への普及啓発⑧在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携を実施している。

○顔の見える関係性を構築することにより、介護関係者から医療関係者のアプローチが容易となり、医療者側の介護への理解が深まっている。

○研修会等を開催し、介護関係者の医療分野の知識の充実が図られ、ケアマネジメントの質が向上している。

○認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができるよう、認知症の人やその家族への早期診断、早期対応に向けた支援体制の構築を目的に、認知症初期集中支援チームを設置しています。また、医療機関、介護サービスや地域の支援機関との連携を図るための支援等を行う認知症地域支援推進員、認知症の人やその家族の困りごとの支援ニーズと認知症サポーターをつなげる仕組みの構築業務等を行うチームオレンジコーディネーターを配置し、地域における支援体制の構築と認知症ケアの向上を図っている。

【成果指標】

指標	現状値		目標値	達成状況
	令和元年度	令和4年度	令和5年度	
① 認知症に係る相談窓口の認知状況 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	23.9%	22.1%	26.3%	未達成
② 認知症サポーター養成総数	15,988人	17,663人	21,520人	未達成
③ 認知症カフェの数	18か所	19か所	20か所	概ね達成
④ 「チームオレンジ」の設置数	なし	1か所	1か所	達成

【目標と自己評価】

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021～2023年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応など
認知症サポーター等養成講座の実施	認知症の理解促進、早期診断・早期対応の普及啓発を目的として、認知症キャラバンメイト及び認知症サポーターの養成に努める。		目標	18,754人	20,137人	21,520人	(2021・2022・2023年度) 認知症サポーターの養成に務めた。また、養成講座実施後に、協力が可能なサポーターの登録を行った。	△	養成目標は達成できなかったが、国の認知症サポーター養成の方針としては、全体の総数を増やす方向から企業・職域型のサポーター養成に変わっている。今後は認知症サポーター養成講座の開催を支援していく中で、企業への広報を検討していく。
		16,184人	実績	17,067人	17,663人	18,518人			
認知症初期集中支援チームの設置	認知症の相談窓口の周知を強化するとともに、認知症初期集中支援チームを地域包括支援センター内に設置し、認知機能の低下があるにも関わらず、必要な医療や介護サービスに結びついていない人等への初期の支援を包括的、集中的に行い、安定的な支援につながるよう対応する。		目標	5チーム	5チーム	5チーム	(2021年度) 徳島市地域包括支援センターに認知症初期集中支援チームを5チーム設置し、課題解決に向けた協議の場として検討委員会を1回開催（書面）した。 (2022年度) 徳島市地域包括支援センターに認知症初期集中支援チームを5チーム設置し、課題解決に向けた協議の場として検討委員会を1回開催（オンライン）した。 (2023年度) 徳島市地域包括支援センターに認知症初期集中支援チームを5チーム設置し、認知症高齢者等への支援を行った。 認知症初期集中支援チームの活動内容についての効果検証、課題解決に向けた協議の場として検討委員会を1回開催（併用型 参加・オンライン）した。	○	認知機能の低下があるにも関わらず、必要な医療や介護サービスに結びついていない人たちへの初期の支援を包括的・集中的に行い、安定的な支援につなげている。また、活動内容については、検討委員会において、効果検証、課題解決に向けた協議を実施している。また、課題検討については、地域ケア推進会議とも連携している。
		5チーム	実績	5チーム	5チーム	5チーム			

施策6 医療と介護の連携推進

(1) 切れ目のない在宅医療・介護の実現

(2) 在宅医療・ACP（人生会議）の普及啓発

(3) 認知症施策との連携強化

【主な事業の実施状況】

○徳島市社会福祉協議会が運営する徳島市ボランティアセンターの運営が円滑に行えるよう支援を行っています。ボランティアセンターにおいては、災害発生時に迅速な対応がとれるよう、災害ボランティアコーディネーターの養成やフォローアップ、実地訓練等を実施した。

○成年後見制度の広報・利用促進を進めるとともに、高齢者の権利・財産が守られるよう支援体制の充実を図っています。また、関係機関との連携を図るための地域連携ネットワークの体制づくりや、中核機関の設置に向けての機能強化に努めている。

○民生委員・児童委員は、市内23行政地区単位で地区民生委員・児童委員協議会を組織しており、調査活動を通じて地区の実態を把握し、地区における相談・援助活動を行っている。

【成果指標】

指標	現状値		目標値	達成状況
	令和元年度	令和4年度	令和5年度	
① 在宅医療支援センターを知っている高齢者の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	30.3%	26.9%	33.3%	未達成
② 「自宅で人生の最期を迎えられる体制が整っている」と回答する 高齢者の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	26.0%	27.0%	28.6%	概ね達成
③ 「自身が終末期になった時にどうしたいかを誰かと話し合ったこと がある」と回答する高齢者の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	38.8%	32.1%	42.7%	未達成

【目標と自己評価】

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021～2023年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
在宅医療介護連携推進事業	医療や介護に携わる多職種や庁内連携・協働により、退院支援、日常の療養支援、急変時の対応、看取り、感染症や災害時の対応など様々な課題の検討を行い、PDCAサイクルに沿った取組を実施する。	/	目標	実施	実施	実施	(2021年度) 多職種及び市の関係課等が出席する「在宅医療介護連携推進協議会」において、直面する課題の検討を行い、コロナ下における多職種間の連携、情報共有方法について、検討することとした。 (2022年度) 「在宅医療介護連携推進協議会」において、事業の評価を行うとともに、「コロナ禍での入院から在宅医療に移行する際のカンファレンスや連携の方法（退院支援について）」について、検討した。2月に多職種連携会議において看取り（APC）について検討を行った。その他、各種研修会などを実施した。 (2023年度) 「在宅医療介護連携推進協議会」において、事業の評価を行うとともに、「医療と介護に関わる多職種間の連携等と看取り（APC）の市民への普及啓発」について、検討した。2月に多職種連携会議において看取り（APC）について検討を行った。その他、各種研修会などを実施した。	○	多職種や庁内連携・協働により課題の検討を行い、PDCAサイクルに沿った取組を実施する。
			実績	実績	実績	実績			

基本目標2 高齢者を支える介護体制づくり

施策 介護保険事業の円滑な運営

- | | | | |
|--------------------------|------------------|----------------------|--------------------|
| (1) 介護給付の適正化と介護サービスの質の向上 | (2) 介護人材の確保 | (3) リハビリテーション提供体制の推進 | (4) 介護保険制度の情報提供の充実 |
| (5) 苦情相談・受付窓口の充実 | (6) 低所得者への支援 | (7) 広報活動の推進 | (8) 災害対策 |
| (9) 感染症対策 | (10) 介護保険財政の健全運営 | | |

【主な事業の実施状況】

○国民健康保険中央会の介護給付適正化システムを使用し、保険者である徳島市介護保険の認定データと、国民健康保険団体連合会から送付される給付実績データを活用して、介護給付に矛盾等が生じたデータを抽出し、ケアプラン点検を実施している。

○住宅改修については、利用者の身体状態に対して適切な改修であるかどうかを確認するため、申請時に写真や見取図等の確認を行うほか、改修完了報告書の提出時には写真等で施工状況の確認を行っている。

○住宅改修完了後及び福祉用具購入後については、現地で利用者等の立会いの下、施工・設置状況や利用状況の確認を行っている。

【成果指標】

指標	現状値		目標値	達成状況
	令和元年度	令和4年度	令和5年度	
① 要介護認定の適正化	100%	100%	100.0%	達成
② ケアプラン点検件数	124件	160件	155件	達成
③ 住宅改修の点検件数	11件	14件	15件	概ね達成
④ 福祉用具購入の点検件数	11件	14件	15件	概ね達成
⑤ 縦覧点検・医療情報との突合実施率	100%	100%	100.0%	達成
⑥ 介護給付費通知の回数	年4回	年4回	年4回	達成
⑦ 事業所への実地指導実施率（実地数／対象事業所数）	16.3%	20.8%	16.6%以上	達成

【目標と自己評価】

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021～2023年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
介護給付の適正化 ■ケアプランの点検	利用者の自立支援に資する適切な介護サービスの質の確保と向上を図るため、国、県の指針等を踏まえ、「要介護認定の適正化」、「ケアプランの点検」、「住宅改修等の点検」、「医療情報との突合・縦覧点検」、「介護給付費通知」の主要5事業について介護給付適正化事業と位置付け、計画的に取り組んでいます。	150件	目標	145件	150件	155件	(2021, 2022, 2023) 国民健康保険中央会の適正化システム等（民間業者のケアプラン点検アプリケーション含む）を使用して、介護給付の偏りがみられる事業所等を抽出し、ケアプラン点検を実施するとともに、必要に応じて指導します。また、資質の向上を図るため、アセスメントからケアプラン作成等についてケアマネ講習会等で情報提供を行い、給付の適正化を図ります。	○	ケアプラン点検は適正化の重要項目であり、本取組の継続の必要性を認識している。
			実績	151件	160件	165件			
介護給付の適正化 ■住宅改修等の点検	利用者の自立支援に資する適切な介護サービスの質の確保と向上を図るため、国、県の指針等を踏まえ、「要介護認定の適正化」、「ケアプランの点検」、「住宅改修等の点検」、「医療情報との突合・縦覧点検」、「介護給付費通知」の主要5事業について介護給付適正化事業と位置付け、計画的に取り組んでいます。	住宅改修の点検件数 13件 福祉用具購入の点検件数 13件	目標	住宅改修の点検件数 13件 福祉用具購入の点検件数 13件	住宅改修の点検件数 14件 福祉用具購入の点検件数 14件	住宅改修の点検件数 15件 福祉用具購入の点検件数 15件	(2021, 2022, 2023) 住宅改修 現時点で、利用者の実態にそぐわない、不適切または不要なものでないか等の内容を事前申請時に確認し、工事完了後は写真及び住環境コーディネーター同行のもと現地確認を行い施工状況を確認済。 また、工事着工前での現地確認も実施する予定。 福祉用具購入 現時点で住宅改修と同様に利用者の福祉用具購入等の必要性及び利用状況をケアマネージャー同行のもと現地確認を行い、その効果を再度確認済。	○	住宅改修などの点検における、実地調査を実施することで、書面以上に実態が把握でき、介護保険給付の適正化につながると考えている。 今後も継続していく。
			実績	住宅改修の点検件数 13件 福祉用具購入の点検件数 13件	住宅改修の点検件数 14件 福祉用具購入の点検件数 14件	住宅改修の点検件数 15件 福祉用具購入の点検件数 15件			
介護給付の適正化 ■医療情報との突合・縦覧点検	利用者の自立支援に資する適切な介護サービスの質の確保と向上を図るため、国、県の指針等を踏まえ、「要介護認定の適正化」、「ケアプランの点検」、「住宅改修等の点検」、「医療情報との突合・縦覧点検」、「介護給付費通知」の主要5事業について介護給付適正化事業と位置付け、計画的に取り組んでいます。	6,806千円	目標	3,000千円	3,100千円	3,200千円	(2021, 2022, 2023) 国民健康保険連合会から送られてくる給付実績を活用して、縦覧点検及び医療費情報との突合を実施し、介護報酬請求の適正化を行う。	○	国保連合会での縦覧点検及び医療情報との突合点検の実施により、十分な成果があると考えられる。
			実績	5,090千円	12,528千円	4,824千円			
介護給付の適正化 ■介護給付費通知	利用者の自立支援に資する適切な介護サービスの質の確保と向上を図るため、国、県の指針等を踏まえ、「要介護認定の適正化」、「ケアプランの点検」、「住宅改修等の点検」、「医療情報との突合・縦覧点検」、「介護給付費通知」の主要5事業について介護給付適正化事業と位置付け、計画的に取り組んでいます。	年4回	目標	年4回	年4回	年4回	(2021, 2022, 2023) 介護保険サービス利用者に対して介護報付状況等について年4回通知することにより、適正かつ適量のサービス選択であるか再度考える機会とするとともに、事業所に請求内容を確認してもらう事で、不正な請求の抑制効果が期待でき、給付の適正化を行う。	○	今後も計画どおり実施し、給付の適正化を行う。
			実績	年4回	年4回	年4回			

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021～2023年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
介護給付の適正化 ■要介護認定の適正化	介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が真に必要とする過不足のないサービスを事業者が適正に提供できるよう促し、適切なサービスの確保とその結果としての費用の効率化を通じて介護保険制度への信頼を高める。		目標	100%	100%	100%	(2021, 2022, 2023) 認定調査の結果については、全て点検を実施するほか、認定調査員及び介護認定審査会委員に対する研修を随時した。	○	取組目標について達成することができた。今後も計画どおり実施し、要介護認定の適正化を行う。
		100%	実績	100%	100%	100%			
介護給付の適正化 ■要介護認定の適正化	利用者の自立支援に資する適切な介護サービスの質の確保と向上を図るため、国、県の指針等を踏まえ、「要介護認定の適正化」、「ケアプランの点検」、「住宅改修等の点検」、「医療情報との突合・縦覧点検」、「介護給付費通知」の主要5事業について介護給付適正化事業と位置付け、計画的に取り組んでいます。		目標	15,534人	15,760人	15,985人	(2018) 認定調査の結果について点検を実施するほか、認定調査員及び介護認定審査会委員に対する研修を随時実施し、合議体編成については年1回変更した。 (2019) 認定調査の結果について点検を実施するほか、認定調査員及び介護認定審査会委員に対する研修を随時実施し、合議体編成については年1回変更した。 (2020) 認定調査の結果について点検を実施するほか、認定調査員及び介護認定審査会委員に対する研修を随時実施した。	○	目標値（申請者数）には達していないが、認定調査の結果については、全て点検を実施するとともに、研修についても随時実施した。 合議体編成については、新型コロナウイルス感染症の影響で書面審査を実施していることから、当年度は変更を行っていないが、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ対応する。
		14,564人	実績	12,174人	14,201人	8,549人			